



2017年12月1日

特定非営利活動法人 風の家
〒730-0843 広島市中区舟入本町 17-8
082-232-6696
buratto-hiroshima@wine.ocn.ne.jp
<http://kazenoie.jp/>



先日広島ホームテレビの取材を受けました。取材を受ける際はいつものことですが、この仕事のでやりがいは？ とか、利用者に対する目標は？ とか、喜びは？ 等々と聞かれますが、いつも答えに窮します。というよりも簡単に答えが出る活動ではないので聞き手を困らせているかも知れません。

更生するために私たちが日々応援する人たちに対して、上から目線気味のやりがいだとか、風の家の手気味の目標など大仰に話すことにはつい躊躇してしまいますが、そう簡単

じゃないよと彼ら一人一人の事情を思います。

我々が彼らのこれからの人生に関わることの重さは、単純な言葉や表面的な美辞麗句で飾ることがいかにも安直でこの仕事への職場放棄にさえ感じます。では「何故に」が風の家がずっと模索し続けていくべき理念のはずですが、今のところそれは、彼らに日々寄り添っていきながら彼ら個々に自然発生的に生まれてくる何かのかなあ、などとこの頃はそんなことを思いながら彼らと付き合っています。（理事長 嘉戸）

近況報告

今年に入って、大学や大学院で犯罪者の社会復帰に関心を持つ学生から見学や実習の問い合わせが増えてきました。分野も教育学、福祉学、法学などさまざまで、社会的包摂やマイノリティについての関心が、ようやく元受刑者にまで届くようになったということなのかも知れません。これまでもテレビや新聞などの取材は受けてきましたが、学術的な広がりを持つことは、この領域にとっても、私たちの支援にとっても新しい展開です。というのは、研究としての広がりが出ることで、支援の方法論、政策立案、世論喚起に肯定的な影響が出るのが考えられるためです。一時だけのブームで終わらずに、息の長い関心が続くことを願っています。

風の家ではそうした見学や実習を積極的に受け入れるようにしています。また、講演、原稿執筆なども積極的に行ってきました。そうした活動はウェブサイトに掲載しています。元受刑者等の社会復帰に関心をお持ちの方がいらっしゃいましたら、どうぞ遠慮なくお問い合わせください。

平成 28 年 12 月に「再犯の防止等の推進に関する法律」が成立しました。これによって国、地方公共団体はそれぞれに民間の施設・団体と協力して再犯防止のための取り組みを行うことが義務づけられました。

早速兵庫県の明石市では、「福祉的支援」「就労支援」「地域的支援」の 3 つの支援を軸にして、新しい更生支援を開始しました。まさに、風の家が取り組んできた再犯防止のための対策が、各自治体において展開する形です。風の家ではさらに、退所後の居場所を提供することで地域生活を支えており、世の中の動きの 1 歩先を進んでいきたいと思っています。

利用者の 声



私が風の家でお世話になってから、2 週間が過ぎました。

私は精神障害者であり、生活保護の受給者です。

私は健全な方々と比べると、てきぱきと物事を処理することができませんが、風の家では職員さん方をはじめ、一緒に生活をしている利用者さん方に温かく見守られ、近々に居宅へ移り、一人暮らしができるようになりましたことに、感謝の思いでいっぱいです。

もうひとつの喜びは、風の家には仏壇があり、毎日母の供養と神様へのお祈りができたことにも深く感謝をしております。

風の家さん、本当にありがとうございました。

平成 29 年 8 月 23 日

ボラン ティア から

SST グループについて紹介しま〜す (^ ^)

風の家には、SST 企画のお手伝いにと声を掛けていただいたことがきっかけで、昨年の秋頃から概ね月 2 回のペースでお邪魔させていただいています。私自身の成長のために関わらせていただいているというのが本音なのですが……。

グループでは、日常生活の出来事に目をむけ、自身の受け止め方や考え方の傾向に気付いたり、「こんな時どうする？」について、より良い方法（手段）をみんなで考えながら、各々の実生活に活かしていけるよう行動練習するなどして進めています。みんなで考えると、自分では思いつかないような対応方法がたくさん出されるので、とても参考になり、時には目から鱗の状態で得した気分を味わっています。

「楽しく」「明るく」「時には真剣に!!」をモットーに、「また来てもいいかな」と思っただけのようなグループができ上がればいいなと思って続けさせていただいています。興味のある方は、是非ご参加ください。 (N)

職員より

風の家で支援を必要としている人達は、もし適切な時期に適切な支援に結びついていたら、違った出会い方をした人達かも知れません。もし彼らが自分自身の困りごとに気付く力が育っていたり、困った時に誰かに助けを求める方法を知っていたり、周りに困っていることに気付いてあげられる誰かがいたならどうだったでしょうか。誰もが困りごとを解決するためにつながることができ、それをオーダーメイドで活用できるような支援の実現、そこに自身の援助者としての姿を描くことができます。

まだまだ未熟な援助者ですが、利用者や職員のかたがたに育ててもらいながら、ともに成長していくことを目指します。 (M)

編集後記

風の家運営が始まって、早いものでもう 7 年目になります。年が明ければ 8 年目に入る今年は、特に何の区切りというわけでもありませんが、ふと立ち止まって、いろいろなことがあったなと考えます。最近、ある地方の保護観察所を訪れました。その地方では、出所者の生活をどうやって支えるかという集まりをカフェ形式で開催しており、そこに観察官も顔を出すことがあるようです。地域に根ざした支援のあり方について、改めて考えました。 (K)